

令和 6 年度

**第 1 回小樽市議会「市民と議員の懇談会」
実施報告書**

参加団体：小樽市 P T A 連合会

日 時：令和 6 年 5 月 3 0 日（木）午後 6 時から
会 場：小樽市民センター
研修室・1 号会議室・2 号会議室

小樽市議会

令和6年度第1回小樽市議会

「市民と議員の懇談会」

日時：令和6年5月30日（木）18時

場所：小樽市民センター

次 第

- 1 開会
- 2 議長挨拶
- 3 議員自己紹介（資料を配布）・・・P3を参照
- 4 各常任委員会報告（資料を配布）・・・P4～11を参照
- 5 意見交換・懇談（3班に分かれてのワークショップ）
- 6 ワークショップでの結果発表
- 7 小樽市PTA連合会ご挨拶
- 8 閉会

} P12～14
を参照

※参加者へのアンケート結果 P15～20を参照

① 開会



② 議長挨拶（趣旨説明）



③ 意見交換・懇談（3班に分かれてのワークショップ）

A 班



B 班



C 班



④ ワークショップでの結果発表



⑤ 小樽市PTA連合会ご挨拶



小樽市議会議員名簿

写真
議席番号 氏名
所属会派
所属常任委員会

(正) は委員長、(副) は副委員長

【議長】



22鈴木 喜明
自由民主党
-

【副議長】



11秋元 智憲
公明党
建設常任委員会

A 班



1 新井田 邦宏
公明党
経済常任委員会



3 松井 真美子
日本共産党
総務常任委員会



12松岩 一輝
自由民主党
総務常任委員会(正)



15中村 吉宏
自由民主党
経済常任委員会(副)



16下兼 薫
立憲・市民連合
厚生常任委員会



20中村 岩雄
みらい
厚生常任委員会



21前田 清貴
みらい
建設常任委員会(正)

B 班



2 白川 貴城
公明党
総務常任委員会



6 小貫 元
日本共産党
経済常任委員会



7 平戸 理史
みらい
経済常任委員会



9 橋本 布美絵
公明党
厚生常任委員会



13中鉢 淳二
自由民主党
建設常任委員会



18高橋 龍
立憲・市民連合
厚生常任委員会(正)



4 酒井 隆裕
日本共産党
厚生常任委員会(副)



5 高野 さくら
日本共産党
建設常任委員会



8 白濱 聡
みらい
建設常任委員会



10横尾 英司
公明党
経済常任委員会(正)



14佐藤 奈緒美
自由民主党
厚生常任委員会



17面野 大輔
立憲・市民連合
経済常任委員会



19小池 二郎
みらい
総務常任委員会(副)



24中村 誠吾
立憲・市民連合
建設常任委員会(副)



25佐々木 秩
立憲・市民連合
総務常任委員会

令和6年度第1回小樽市議会「市民と議員の懇談会」資料
(懇談会のテーマに関連する各常任委員会での議論の紹介)

総務常任委員会

質 問	答 弁
[令和6年第1回定例会] 1 福祉避難所について 専門性の高いサービスを必要とし、避難所での生活が困難な要配慮者のため、2次避難所として必要に応じ開設する福祉避難所については、市内9か所の社会福祉施設と開設等に関する協定を締結していますが、この9か所で足りているという認識ですか。 また、能登半島地震では、甚大な被害を受けた地域での福祉避難所の開設が難航したという話が聞かれることから、市にはそうした実情を教訓とし、本市の対応について検討してほしいと思いたすがいかがですか。 2 大雪等による臨時休校について 大雪等による小・中学校の臨時休校については、各学校長が判断基準に沿って前日または当日の朝に判断しているということですが、保護者からは、判断が当日の朝になった場合、子どもの預け先などの対応に困るという声が聞かれることから、学校が前日のうちに判断できるよう、市教委と校長会において、一定の基準を設ける必要があると思いたすがいかがですか。 また、臨時休校の際、子どもの預け先に困る世帯に対し、誰がどのように支援していくのかを地域の問題として今後考えていく必要があり、預け先に困っている世帯がどのくらいあるのか、調査しておく必要があると思いたすがいかがですか。	福祉避難所への避難が必要と判断される要支援者がどの程度発生するかについては、災害の発生状況等によるところが大きいことから、現時点においての明言は難しいものと考えています。 本市の福祉避難所の対応に関する改善、検討については、まず、既に協定を締結している福祉避難所の施設管理者と2次避難所の在り方について意見交換を行っていくほか、新たに協定を締結いただける施設がないか、情報収集に努めたいと考えています。 また、道内の他の地域で大規模災害が発生した場合には、本市の協定施設が、他自治体の避難者を受け入れる可能性も想定されますので、連携の強化といった視点で、施設の拡大が今後、必要ではないかと考えています。 冬場の天候や雪の降り方については、地域や立地状況によって異なるため、一律に対応することによって、子どもたちを危険な状況にさらしてしまうことは避けたいと考えています。 また、児童・生徒がいる各世帯の情報については、各学校において年度当初に把握しているので、市教育委員会として改めて調査をすることは考えていませんが、各家庭における子どもの居場所の確保については、大雪も災害の一つと捉えたときに、どのような対応ができるのか、校長会と情報交換していきたいと考えています。

質 問	答 弁
3 指導主事の適正配置について 市教委は、業務量と職員数について毎年検証を行っており、平成 27 年度と令和元年度にはそれぞれ 1 名ずつ指導主事を増員したといいますが、具体的にどのような検証を行ってきたのですか。 また、コロナ禍が明けて、学校生活が通常に戻ってくると、学校でのトラブルが増加するなど、現場の教員の業務量が増え、市教委が担う役割も大きくなると思われますが、市教委には引き続き、適正な職員配置について検討を行ってほしいと思いますがいかがですか。	指導主事に限った話ではありませんが、教育部内の職員配置については、各課から業務量などを含めた状況についてヒアリングを行っており、検証を行っています。 他都市との比較において、指導主事については、正規職員で指導主事に配置されている人数はある程度把握しています。 また、その実態の規模も把握しており、児童・生徒数もそれぞれ出ていますので、そういった部分を総合的に比較しています。

経済常任委員会

質 問	答 弁
[令和４年第１回定例会] １ 創業支援について 斜面が多く、平坦な土地が少ない本市においては、場所を使わなくても経済効果を生み出すことができるＩＴ関連分野の事業等が創業に適した事業として考えられますが、本市の支援策として、サテライトオフィスやシェアオフィス、コワーキングスペースなどの施設を整備する取組を検討したことはありますか。 また、共働きの時代にあつて、女性の働く場所を確保することが、住む場所として選ばれることにつながると思いますが、企業とまではいかないような小さな起業を支援する仕組みや、副業をしやすいように支援を充実させるなど、小樽ならではの、市民の目線に立った細やかな支援を行うことで地域経済を活性化させていくということも検討してほしいと思いますがいかがですか。	サテライトオフィスについては、純粋な創業ではないので、創業支援補助金という中での対応は難しいと思います。 創業支援補助金は業種等の要件を設けていないので、コワーキングスペース等で創業したいという方も補助金の対象にはなります。しかし、特化して支援するといったところは、この創業支援補助金の中で議論したという経過はありません。 創業支援補助金は雇用、転入促進、転出抑制や市内取引拡大などを目的に補助をしています。見直しは必要なことだと思っており、中小企業振興会議や経済団体などの意見を聞きながら検討していく中で女性の企業や小さな企業、副業支援についても議論をしていく必要があると考えています。
[令和４年第３回定例会] １ 女性に対する就業支援について 人口が減少していく中、女性の活躍が期待されており、女性をターゲットにした施策は重要であると考えます。 本市でも今年度から女性の再雇用制度を設ける企業を紹介するジョブリターン制度を導入したといいますが、ジョブリターン制度以外に、女性の働きやすいまちにするための取組として検討しているものはありますか。 また、大都市である札幌市と隣接している中で、本市で働きたい、住みたいと思ってもらえるまちにするには、女性が働きやすいという視点を訴えることも非常に重要であると考えます。市には、女性が働きやすいまちにするための取組について、引き続き検討を行ってほしいと思いますがいかがですか。	多様性を取り入れた企業というのは、女性だけでなく全体も働きやすい時代であると思います。 市が事務局をしている雇用創造協議会で、女性と高齢者用の合同企業説明会を実施しており、そのような取組で会社も女性や高齢者の採用についての意識が少しずつ醸成されるものと考えています。 現在の取組ですが、小樽市中小企業振興会議で女性の復職支援についての意見があり、女性のジョブリターンに関する専用ホームページを開設し、女性の再雇用制度を設ける小樽市内の企業を紹介するなど、広く周知する事業を立ち上げました。 また、地域雇用創造協議会では、労働力確保の観点からですが、女性や高齢者を採用するメリットや働きやすい環境づくりなどの内容の多様な人材確保セミナーの開催を予定しています。

質 問	答 弁
[令和４年第４回定例会] １ 人口減少対策につながる経済対策について 小樽市人口減少問題研究会の報告書によると、本市の所得水準を引き上げれば、人口減少の社会減、自然減ともに歯止めをかけられる可能性が高く、既存企業の利益率の改善のほか、高利益高賃金産業の誘致や育成などがその具体的な方策として挙げられています。市はこれらの方策についてどのように考えていますか。 また、市には、小樽商科大学と共同で研究した報告書を活用し、人口減少問題にしっかりとした効果が出る施策を行ってほしいと思いますがいかがですか。	給与水準を上げるためには、企業の収益改善が必要であると考えていますが、一方で企業には、感染症対応や物価高騰など様々な課題があるのも事実です。 業態や業種の転換、新分野への進出、販路の拡大の取組などが企業の課題解決につながり、企業の収益率の向上、給与水準の向上につながる可能性があります。 市の取組として、設備投資の融資制度やコロナ禍を踏まえた新たな取組、企業のチャレンジなどへの補助金の制度があり、活用したいという声があれば引き継ぎするなど、企業の課題を解決するような支援を行ってまいりたいと考えています。 観光産業では、滞在型観光の推進を図って観光消費額の拡大に結びつける取組が必要であり、具体的な取組として、国のメニューを活用した宿泊施設等の高付加価値化や小樽観光協会でのおもてなし向上の取組を支援していくことが重要と考えています。 また、賃金が高い傾向にある、情報サービス業やサテライトオフィスを誘致するため、市内の視察費用の一部を補助する立地環境視察費用補助金を創設するなど、誘致の取組を進めています。

質 問	答 弁
[令和5年第2回定例会] 1 保育所の課題について 築40年以上の手宮保育所は老朽化しており、耐震性が未確認の状況で、建て替えが計画されているものの場所は未定となっていますが、3階建てや屋上利用により機能を維持しつつ、子どもの安全を優先し現地で建て替えられませんか 2 病児・病後児の預かり 無償化により負担が軽減されたため利用が増えています。無償化の継続を望むとともに、利用をスムーズにするため、市内保育所への申込時に病児保育も同時に登録できるようにならないでしょうか。 [令和5年第3回定例会] 1 児童館・児童センターの拡充 市内の児童館・児童センターは全て西側に位置し、東側地区の住民からは施設不足との声が上がっています。子どもたちの利便性と安全性を考慮し、総合計画の目標に沿った施設整備が望まれるところですが、市はどのように考えますか。 2 周産期医療に関して 小樽レディースクリニックの分娩終了後、小樽協会病院に医師増員の働き掛けを行っています。周産期医療の存続は重要であり、支援体制の強化や広報誌で協会病院の分娩情報を周知する必要性について伺います。	御提言の3階建てなどについては、理論上は可能ですが、現地建て替えの場合、仮園舎の場所の確保が不透明であることから、実現は難しいと考えています。いずれにせよ、令和6年度の建替えを先送りしている状況であることから、児童数なども見ながら今後の方針を早めに整理していきます。 保護者の負担軽減の観点から、2,000円の利用料を無料としており、今後も継続していきたいと考えています。入園の申込みなどで保護者が窓口に来られた際に、登録をお勧めしていますが、登録するかどうかは、飽くまで任意であるものと考えています。 現時点で、児童館や児童センターの新設について具体的な検討は行っていないですが、子どもたちが安心安全に過ごせる場の充実の必要性は感じていますので、今後どのような形で推進できるか考えていきます。 積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村に本市を含めた6市町村と北海道、小樽医師会、余市医師会等から構成される、北後志周産期医療協議会の場で、必要な支援を協議するとともに、札幌からの医師派遣について医大に強く要請していきます。また、分娩が市内で継続されるということについては広く周知していきます。

質 問	答 弁
[令和6年第1回定例会] 1 ファミリーサポートセンター（ファミサポ）事業について 子育ての援助を行う会員と、子育ての援助を受けたい会員とが助け合い、地域で子育てを行う会員組織がファミサポです。しかし、サービス提供会員の高齢化と、少子化による依頼会員の減少に伴い、緩やかな事業縮小が想定されますが、市はどう考えていますか。 また、子育て応援アプリを使っの連携のほか、妊娠中やゼロ歳児の子どもがいる家庭には一部無料化することなどを検討してもらいたいと思いますがいかがですか。 2 放課後児童クラブについて 本市では放課後児童クラブの開設時間内に送迎が間に合わないケースがあると聞きます。市では、令和6年度に放課後児童クラブの利用手数料の無償化を実施し、開設時間の延長は7年度から検討するとしていますが、送迎の問題で仕事を辞める人もいるため、早期にできる方策を探ってほしいと思いますがいかがですか。	子どもの数の減少によって、事業規模が縮小されていくことは想像されますが、重要なのは依頼にしっかり応えられることだと考えています。一件ずつ電話で丁寧に対応するため、アプリを使っのマッチングなどは現状難しく、また、無料化については、予算の確保や無料化で一気に需要が増えるという課題があるため、他市の事例を調べてみたいと考えています。 放課後児童クラブの時間延長の必要性は強く感じていますが、令和6年度中への前倒しは、約130人いる支援員の勤務体制の変更や調整という問題もあるため、令和6年度には検討を進め、令和7年度から何とか実施していきたいと考えています。

建設常任委員会

質 問	答 弁
[令和5年第2回定例会] 1 公園のトイレについて 本市には、都市公園が93か所ありますが、種類ごとに、公園の数、そのうちトイレが設置されている公園の数、さらに洋式化している公園の数を教えてください。 トイレが設置されている公園で、ベビーシートやベビーチェアについては何か所設置されていますか。 2 しらゆり公園について 銭函市民センターに隣接しているしらゆり公園の管理はどこで行っていますか。	種類ごとに申し上げますと、街区公園71か所、そのうちトイレのある公園は45か所で、洋式化は32か所。近隣公園11か所、そのうちトイレのある公園は9か所で、洋式化は8か所。地区公園6か所、そのうちトイレのある公園は6か所で、洋式化も6か所。総合公園3か所、そのうちトイレのある公園は3か所で、洋式化も3か所。緑地2か所、そのうちトイレのある公園は1か所で、洋式化も1か所です。 街区公園では、ベビーシートが設置されているトイレはなく、ベビーチェアが設置されているトイレは2か所。近隣公園では、ベビーシートは1か所で、ベビーチェアは3か所。地区公園では、ベビーシートは2か所で、ベビーチェアは2か所。総合公園では、ベビーシートは3か所で、ベビーチェアは2か所。緑地では、ベビーシートは1か所で、ベビーチェアが1か所です。 本市の都市公園の一つとなりますので、小樽市が管理しています。

質 問	答 弁
銭函市民センターの新築、改築について、地域の方からは、現状で、駐車場が少ないというような話もあり、隣接するしらゆり公園を狭くしたり、近くに市の土地があればそちらに公園を移したりして、子どもたちが遊べるようなスペースを市民センターの中に造ってはどうかというような話も聞いています。実際に、公園を小さくする、また移転するというようなことは可能でしょうか。 〔令和５年第４回定例会〕 １ 本市の空き家バンク制度について 今後空き家の登録先を北海道空き家情報バンクへ一本化することですが、これは本市空き家バンク制度の事実上の制度廃止です。他都市では地域の特性を考え工夫している状況があることから、本市でも特色ある取組として空き家バンク制度を残し、工夫することで活用できるのではないかと思いますがいかがでしょうか。	公園そのものを削減する若しくは面積の一部を削減することは、どちらも、都市公園法第１６条の都市公園の保存という項目において、公園管理者はみだりに都市公園の区域の全部又は一部について都市公園を廃止してはならないとされていますので、削減は困難と考えています。 また、移転については、同じく第１６条によると、廃止される都市公園に代わるべき都市公園が設置される場合については可能となる場合がありますので、可能性はあります。 今回の北海道空き家バンクへの一本化は、本市空き家バンク制度側から見れば廃止ということになるかと思いますが、人口の多い道内主要１０都市で市独自で空き家バンク制度を持っているのは本市だけであるということもあり、まずは道への移行という形にしていきたいと考えています。成約した場合に物件取得者に対して改修費の補助などの一定のインセンティブを与えるなど、他都市の事例を参考としながら、今後なるべく本市の空き家が登録されやすいような環境をつくっていきたいと考えています。

第1回市民と議員の懇談会 ワークショップの主な意見

【A班】

ワーク ショップ	会場 1号会議室 18時20分～19時05分 参加者 議員：7名 市P連：9名
テーマ	人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり～ 小テーマ：学校
ワークシ ョップで 出た意見	・校内で子どもたちが安心して飲める水の管理を。 ・廃校になっている小中学校の跡利用を進めてほしい。 ・通級指導教室が無い学校への教員の配置や支援を受けやすい環境を整備してほしい。 ・教員の不足している状態が不安である。 ・退職校長がボランティアで学校に来ることはできないだろうか。 ・通学路の除排雪はしっかりとしてほしい。 ・緑上部会館近くの川沿いの道で雪が積み上がり、そこに上った児童が川に落ちたことがあったので、対応してもらいたい。 ・子どもたちがやりたい部活動ができる環境づくりをもっと進めてほしい。 ・張碓小学校のグラウンドの水はけが悪いため、子どもたちが安心安全に使えるよう、グラウンド整備をしてほしい。 ・暑さのために突然の休校や早退時に対応できる子どもの預け場所が欲しい。
まとめ	参加者からは子どもたちが安心安全に学校生活を送ることができるようにとの意見が大半を占めた。また、一人も取り残されることがないようにとの意見のほか、教員の不足による科目の掛け持ちなどに対する意見もあり、教員の環境改善と認識された。子どもたちが元気で生き生きと暮らせる小樽であれるようにという姿勢が、これから子育てをする世代のみなさんに伝わっていくのではないかと。

【B班】

ワーク ショップ	会場 研修室 18時25分～19時05分 参加者 議員：8名 市P連：10名
テーマ	人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり～ 小テーマ：地域
ワークシ ョップで 出た意見	・小中学校のトイレの改修を早く進めてほしい。 ・空き家を整備し子育て世代へ提供してはどうか。 ・人口動態を加味した保育所の統合や新設などを考えてほしい。 ・街灯を増やすなどして、夜になると暗い道路をなくしてほしい。 ・なんでも相談できる相談員のような人が町内会単位でいてほしい。 ・町内会の世代交代を進めて、持続可能な町内会にする取組をしてほしい。 ・バスの減便対策など公共交通の維持に向けた取組を強化してほしい。 ・札幌とは違う特色のある街づくりをしてほしい。 ・市内にはドラマや映画のロケ地となり聖地化している所もあるが受け入れ体制が整っていない。 ・小樽市が発展するためには移住者や外国人の受入れが必要になってくるのではないか。 ・子どもがスマホを使ってネットいじめに遭わないか心配。 ・フリースクールを充実してほしい。
まとめ	・「地域」というテーマだったため意見が広範囲になった。 ・御近所や町内会とのつながり・交流が子育てにとって大切であると考え参加者が多かった。しかし世代間の考え方の違いが交流のハードルとなっている。互いに歩み寄り、持続可能な町内会への取組が必要と思うとの、地域活動への前向きな意見があった。 ・空き家の整備や保育所の適正配置で子育て支援をすべき。 ・小中学校のトイレの改修や、子どものスマホなどによるネット内でのいじめなどの心配、フリースクールの充実など学校周りでの生活環境への希望があった。 ・外国人含めた移住政策を進める必要がある。札幌とは違う特色のあるまちづくりをするべきなど、市の特色などをもっと生かすよう希望があった。

【C班】

ワーク ショップ	会場 2号会議室 18時20分～19時05分 参加者 議員：7名 市P連：9名
テーマ	人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり～ 小テーマ：家庭
ワークシ ョップで 出た意見	・アプリなどで子育て支援の情報発信を。 ・部活や給食費、進学にお金がかかる。所得に関係なく支援策を。 ・町内会は若い人が入りやすい雰囲気や組織づくりを。 ・未就学児の発達障害に触れてはいけない雰囲気を感じる。保育園や幼稚園で積極的に相談ができるようにしてほしい。 ・雪害に対する家のリフォーム支援を。 ・小樽は高齢者率が高いとデメリットを感じるが、逆にメリットとして地域の高齢者が子どもたちのお世話をする地域づくりを。 ・挨拶し合えるコミュニケーションある地域づくりを。 ・他の自治体のように出産祝い金の制度を。 ・共働きが多いので、病児保育できるところを増やしてほしい。 ・扶養控除の制度を変えて、働きやすいようにしてほしい。 ・産後ケア事業は、2週間後ではなく、成長の過程で様々な不安や悩みが出る3週間後とか柔軟な訪問期間を設けてほしい。 ・天候が悪い日でも子どもたちを遊ばせられる施設整備を。 ・公園整備は朝里地区をモデルにし自然環境の魅力の深掘りを。
まとめ	・子育て支援については、出産祝金の導入や奨学金返済支援など収入にかかわらず子育ての支援を求める声があった。また、産後ケアや発達障害など子どもに関する悩みごとが気楽に相談できる環境づくりを望む声も寄せられた。 ・環境整備では、家のリフォーム助成の拡充や申請の簡素化を求める意見や、地域によって公園整備の偏りが無いよう、幼児～小学生が楽しめるようにしてほしいという意見、天候に関係無く遊べる場所が欲しいとの意見も出された。 ・働き方の部分では、扶養控除の範囲が設定されているため、時間や収入を気にして働いていて、慢性的に人手不足が生じているとの声も。 ・地域とのつながりの部分では、地域の高齢者が子どもをみてるような仕組みや町内会も若い人が入るような組織など、地域住民とのコミュニケーションを深めることで、子どもたちの安全や住みやすい環境づくりになるのではないかという話も出されました。

**第 1 回市民と議員の懇談会に参加された
市 P 連の皆様へのアンケート**

～結 果～

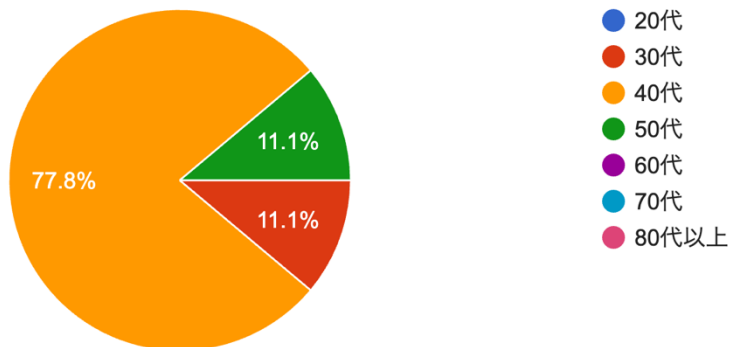
参加者 2 5 名・アンケート回収 1 9 名（回答率 7 6 %）

令和6年度第1回小樽市議会「市民と議員の懇談会」事後アンケート結果

回答総数 19

年齢

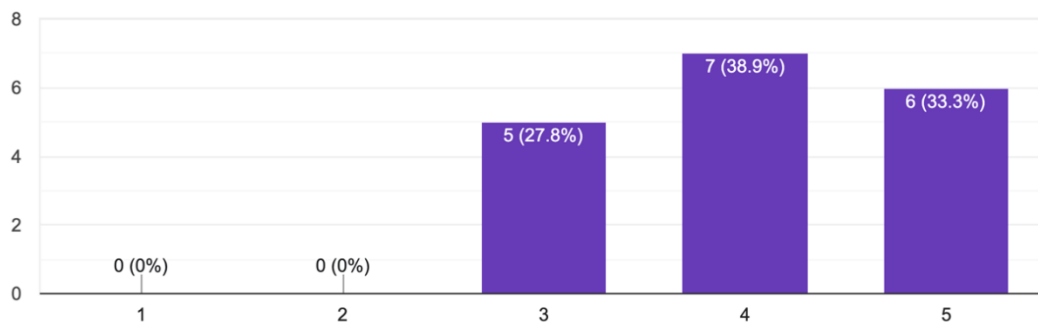
18件の回答



30代：2名 40代：14名 50代：2名

開催日時について

18件の回答



悪い1～良い5

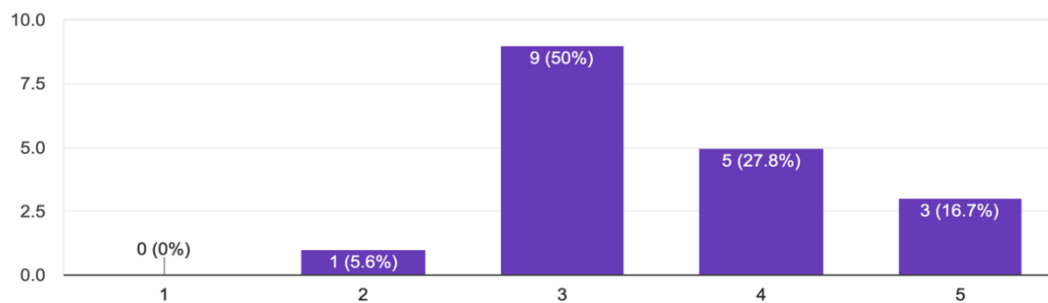
【開催日時についての御意見】 10件の回答

- ・ 開始時間をもう少し遅くしてほしい。
- ・ 参加者の勤務時間等を考慮すると、18時30分または19時00分開催開始の方が良いように思う。
- ・ 時間もちょうど良かったです。
- ・ 仕事終わりで駆け付けた参加者も多かったので、後30分ぐらい遅くて余裕あるとありがたいです。
- ・ 始まりの時間が良かった。2時間しても8時には終わるので、子供の寝かしつけもできた。
- ・ 開始18時は厳しい。
- ・ 丁度良い。
- ・ 仕事の後に参加される人がいるので、30分位遅くなると良い。
- ・ 予定次第なので、特にありません。
- ・ 18:00だと、仕事の都合で遅れて来る方が多かったように思います。

【所 感】

- ・ 有職者には18時開始は厳しいという御意見が多い。
- ・ 丁度よいという御意見がある一方で、もう少し遅い開催時間を望む声も多く聞かれました。

開催場所について
18件の回答



悪い1～良い5

【開催場所についての御意見】 9件の回答

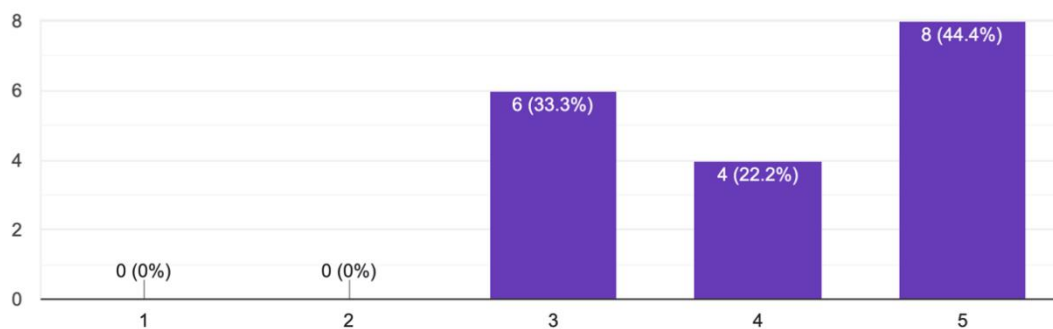
- ・ 駐車場が少ない。
- ・ 車での参加者がいるので、駐車場の確保が必要と思う。
- ・ 駐車場が狭い 遠方からの参加者に配慮をお願いしたい。
- ・ 駐車場が少ないです。
- ・ 駐車場もある場所で良かったです。
- ・ 駐車場がやや少ない。
- ・ 駐車場が広い所が良かったです。
- ・ 駐車場もあるのでありがたいです。
- ・ 駐車場がいっぱいになると、有料駐車場を使用しなければならない。

【所 感】・早い時間に来た参加者は停められたが、遅くきた方にとって駐車場は足りないと感じている。

参加人数には足りていなかった。

- ・ 駐車場についての不満の声が多く聞かれました。

説明・委員長報告について
18件の回答



悪い1～良い5

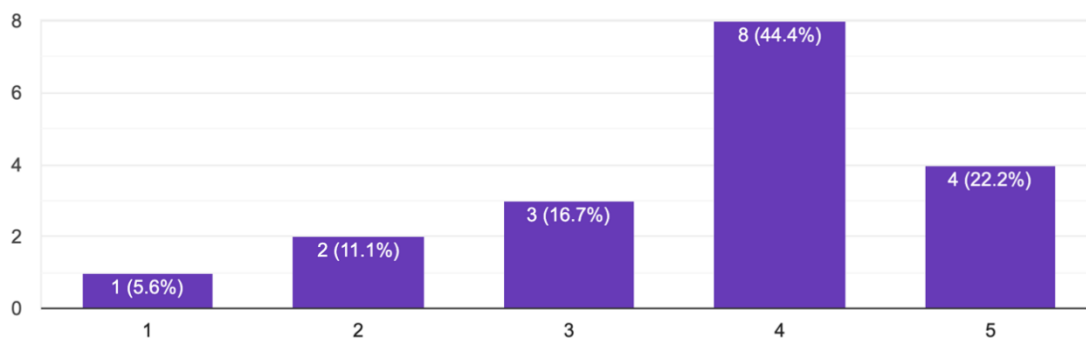
【説明・委員長報告についての御意見】 6 件の回答

- ・ 漠然としていたので、もう少し絞った方がよい。
- ・ 分かりやすく説明していたと思います。
- ・ 普通。
- ・ 良い。
- ・ 簡潔にまとめていただけており、分かりやすかった。
- ・ 若い方の進行・報告は、限られた時間の中で、良くまとめられたと思います。

【所 感】・わりと聞きやすいと感じている方が多い。

ワークショップについて

18 件の回答



悪い 1 ～ 良い 5

【ワークショップについての御意見】 16 件の回答

- ・ 今回 CS でも行っている熟議スタイルを導入したのは良かったと思います。ただ、経験者を取りまとめ役にするともっと効果があると思います。
- ・ 仕分けに時間がかかっていたので、ある程度内容を絞った方が良かったと思いました。
- ・ 私的意見ではありますが、苦手です。
- ・ 時間が足りなかったです。
- ・ もう少しワークショップの進め方などの準備をしておくべきだったのではないかと思います。ふせんの色分けや書く内容はどういう事についてなのかなど、事前に想定しておいても良かったのかなと思います。
- ・ 市議の方と直接話すことができ、とても良かったです。
- ・ ボールペンが暫く使用していなかったためか、インクが出ず書きづらかった。3 班にテーマ分けて意見を出し合ったが、テーマから 3 つに分類すると、他のテーマと重なることが多かった。大筋のテーマからあらかじめ小テーマを決めておくなど、イメージし易いようにしておく、出だしから意見を出し易かったと思います。家庭→金銭面・近隣・家屋・学習など、地域→観光・公共設備・公共交通・活用など、学校→学力・インフラ設備・教師・連携など。大筋のテーマが大き過ぎると、自分の抱えている問題などからしかイメージがつかないため、不満を上げていることにしかならないと感じました。結果発表では、まとめることは難しいですが、意見を出した方の声がそのまま伝わったかどうかは疑問に感じました。録音もされていたので、改めて文章にされるかと思いますが、生活のしづらさや息苦しさ伝わって、早期に改善されることを望みます。

- ・色んな意見が聞けてよかったです。
- ・今回、このような場を設けていただけたことは貴重でありがたかったですが、各校の会長(市民)からの意見を吸い上げるという意味では、ワークショップという形でなくても良かったのではないかと思います。各校会長同士の意見交換を、議員さんを通じてしたかったです。各学校のお父さんお母さんの思っている事など考えが聞けて良かった。
- ・色々な意見が出て大変良かった。
- ・もう少し時間が欲しいかなと。それと、テーマごとに別れはしたが結局は同じような内容になってきたので、ブロックごとで分けたほうが新鮮な意見が出てくるのではないだろうか？
- ・慣れるまで時間がかかった。
- ・とても良かったが、進行役によっては差が出てしまいそうだと感じました。
- ・ワークショップ形式が、お知らせを見ただけじゃ分からなかった。
- ・ふせんに要望を書いてまとめるのは良かったが、それだけに時間を取られてるチームもあったように感じます。
- ・議員さんたちには、ワークショップの目的・報告の意図が共有されていないように感じた。

【所 感】・「時間が足りない。」「いろいろな意見が聞けた。」「市議と直接話せて良かった。」という肯定意見もありましたが、市議側の準備不足（司会進行含め）といった意見も散見されています。

- ・全体を通して、貴重なご意見をたくさん聞くことができました。

【次回の市民と議員の懇談会には、どのような内容を希望しますか】 11 件の回答

- ・今回の話を経てどういう、動きがあったか？それと改善された内容と改善されなかった内容を比べて、実現できるのかなど指針にする。
- ・もっと内容の絞った議題。
- ・議員の方がどのような活動をしているかについて、お話の時間があつたほうがいい。
- ・テーマは時制に沿った内容で良いと思う。
- ・ワークショップ型なのはいいと思いますので、もう少しやり方や話し合いの進め方がスマートになるといいと考えます。もう少し具体的な内容での意見交換が必要。人数も今回は多かったのも、もっと意見を述べたい方がいたように思います。また、今後も継続的に開催していただけたらありがたいです。
- ・同様にワークショップを開催してほしい地域、学校、家庭の他に、子育ての悩み等もあって良かったかもしれないです。
- ・今回よりもテーマが絞られている場合は、もっと深掘りができそうだと感じました。
- ・市の財政問題が大元かと思いますが…、生活保護者増による財政圧迫に切り込んでいただきたいです。働けない理由は様々かと存じておりますが、札幌市で生活保護がもらえないから小樽市に移住して保護費をもらい働かない→税金を使う。医療費など無償になる。市民税や国保の一人当たりの負担増加。働かない→税収が増えない。人口減は一時的に抑えられるが、結婚や出産につながらないため、出生率の低下は変わらず、結果的に人口減少の歯止めにならない。それよりも、シングルマザーをはじめ共働き世帯などに、乳幼児・幼児・未就学・学童保育など完全無償で安心して働ける環境を整えてあげることで、若い働き手を増やし経済の活性化を図ることも大事ではないかと思います。なので、様々な生活環境・生活水準で小樽市に在住している方々で、生活保護世帯を無くして行くためには、市政がどのよう

にしてもらえることがありがたいのかを、意見を募る場を作ってほしいです。

- ・もらっている人も不満。間接的にあげてる人も不満なのは、良くない状況だと思いました。
- ・市P連との懇談会は、初めてとのことでしたが、今後も会を重ねられることを希望します。また人口減少は、
日本全体の問題であり、最も懇談しなければならない議題ではないでしょうか。
- ・今現在の問題だけではなく、10年、20年先の事柄を考え懇談してほしいです。

【所 感】・ワークショップ型をもっとブラッシュアップすることで、対話がスムーズになりより活発な意見をお聞きできるものと思います。総体的に、市議との懇談会に対して肯定してくださる意見と思が多いようです。

- ・次回開催に当たり、参考となる御意見をたくさんお寄せいただきました。

【その他、今回の懇談会や議会に対する御意見、御提言】 9 件の回答

- ・議題を絞り、参加者の意見を取り入れつつも、もっと円滑に議事進行が行われると良いと思う。
- ・時間が短いと感じたので、時間を長くするか議題の細分化でグループを増やした方が全員が発言しやすくなると思います
- ・もう少し長い時間のほうがいい。
- ・いろいろなお話が聞けてとても勉強になりました。どれも財政が必要なものばかりで、やはり、ふるさと納税の拡充が早急に必須なのかと感じました。ニトリ会長もお話していたように、観光などとてもいいものがあるのでそれをもっと発信するために、もっと第三者の意見を聞いてもいいのかと思いました。
- ・この度、このような場を設けてくださり、ありがとうございます。今後も市民と議員の方々が接する機会を設けていただくことが、市政に関心をさらに向けていくことになると思います。人口減少が目に見えており、どんな分野でも非常に厳しい時代ですが、より良い小樽市にしてゆくためにも、発展的な議論ができる市議会や助け合っていく市民同士のつながりができれば、次世代へも安心してバトンタッチできるように思います。
- ・小樽はやっぱり山も海もあって良い。兄が、小樽はランニングしてて気持ちいいし、走りながら見る街の風景が飽きないって言ってました。舞鶴から小樽行きのフェリーに乗って帰ってきた時、海から見る小樽は本当にきれいだった。
- ・この懇談会で出た意見を、ぜひ実現させてほしいと思います！
- ・貴重な機会を作っていただきまして、ありがとうございました。
- ・コミュニティスクールが、議題に上がっていたので、自分なりに勉強しました。学校と地域(町内会)の交流が課題になっており、運営がスムーズにできていないことが全国的な事案とのこと。小樽でも同様だと推測します。今回の懇談会のように、議員さんには是非とも調整役を買って出てほしいです。